

基肄城築造1350年

基肄城を知る

16

—草スキーも有名な基山—



基山きざんといえば、何を思い浮かべますか。

基肄城跡、小中学校の遠足、ハイキングなどをイメージされる方も多いでしょう。その中でも、基山きざんについて広く知られているものの一つが「草スキー」です。草スキーは、町の有名な観光スポットの一つでもあります。

草スキーのシーズンは、3月5月と9月中旬～11月となつて



写真1 草スキー場から上を望む
(中央に見える高まりが土塁)



写真2 かつての草スキーの風景
(昭和46年刊行『基山町史』より一部改変・転載)

います。現在、スキー場の天然草を保護するために、プラスチックスキー板の使用は禁止されています。そのため、シーズン中は木製スキー板の貸出しが行われており、1台300円で借りることができます。土・日曜日、祝日は、基山公園駐車場から上がった左手にある小屋で貸出しが行われており、山頂へ続く丘陵や傾斜面が滑る場所になります。ちなみに、スキー場

から山頂を見上げると、傾斜の強い部分があります。これが基肄城を取り囲む「土塁」の一部です(写真1)。

シーズンになると、多くの家族連れが、予想以上に出るスピードを体感しながら、草スキーを楽しんでいます。今年は基肄城築造1350年記念事業の一つとして「草守基肄大会」が開催され、タイムを競い合いました。

草スキーがいつから始まったのか正確には分かっていませんが、昭和10年代に記された『基山郷土読本』の中に、「19 草スキー」という項目を確認できることから、少なくとも約80年前には草スキーが行われていたことが分かります。また、昭和20年代の広告からも基山のにぎわ

いを知ることができます。基山ラジウム鉱泉(基山ラジウム温泉)が発見された際、基山町商工会は、町の観光目玉として「秋は招く基山ハイキングの好季節」をおかえりは 基山ラジウム温泉へ」と宣伝しています。ここには、ハイキングとしか書かれていませんが、その頃の新聞に基山の草スキーを取り上げた記事もあることから、ハイキングとともに、草スキーも盛んであったと考えられます。昭和46年に刊行された『基山町史』には、「高さ四〇四米、現在は単なるハイキング、ピクニックのみならず、九州随一のローンスキーのローンスキー場として知らせ、年間数十万人の登山客を迎えている。」と書かれており、九州随一と掲げられているほど一大観光地として盛り上がっていた様子が見えがえします(写真2)。

また、かつては草スキーだけでなく、冬にはスキーも楽しむことができたようです(写真3)。昭和30年代に撮影された写真を見ると斜面がグレンデになっており、ストックを持って、スキー板を履いた大勢の人が楽しんでいます。しかし、現在は写真のように雪が降り積もることがほとんどないため、冬にスキーをするのは難しいようです。

このように、基山を舞台とした草スキーを紐解いていくと、多くの人が関わっていた歴史があります。草スキーは、後世に伝えていくべき、基山町の大切な文化遺産の一つといえます。

※問合せ先

教育学習課

ふるさと歴史係

電話92-2200



写真3 かつての冬スキーの風景
(昭和46年刊行『基山町史』より一部改変・転載)